

吉野熊野国立公園・吉野山における桜樹林の再生

【提案・要望先】 環境省

提案・要望事項

1. 調査研究への助成

桜樹林の樹勢衰退原因究明のため地元等が行う調査研究に対する補助制度の創設

- ・樹勢衰退の現況とその要因、樹勢回復の対策方法を究明する調査
- ・調査期間:平成20年度～平成24年度
- ・調査経費:全体所要額1,000万円

2. 樹林再生事業の創設(国庫100/100)

桜の樹勢回復等、樹林再生のため行う事業の創設

- ・調査研究結果を踏まえた樹勢回復対策
- ・衰退要因として明らかになっているてんぐ巣病、ヤドリギ、枯死木等の除去
- ・事業期間等:平成22年度～ (仮称)吉野山桜樹林保全推進事業

平成21年11月

現状と問題点

1. 吉野山は吉野熊野国立公園の中核をなす全国屈指の桜の名所で年間約85万人が訪れる。しかし、地球温暖化等の様々な原因により桜樹林の樹勢が衰退し、枯死する桜や病気に冒される桜が目立っている。



「てんぐ巣病」に冒された桜の枝



桜の枝に寄生した「ヤドリギ」



桜の幹を覆う「ウメノキコケ」

2. 本県では、平成5年度に「吉野山サクラ対策検討委員会」を発足し、衰退状況の調査や調査結果に基づく樹勢回復の事業に10年余り取り組んできた結果、一定の成果は得たものの樹勢衰退の進行に歯止めが掛からない現状にある。

区 分		桜活性化対策 H6～H10		桜被害対策 H11～H13		桜樹林拡大 H14～H16		合 計
		県事業	町事業	県事業	町事業	県事業	町事業	
事業内容	つるきり	3,500本	3,500本					7,000本
	下草刈り	23ha	23ha	14ha	14ha	30ha	45ha	149ha
	施肥	8,250本	8,250本	2,820本	2,880本			22,200本
	てんぐ巣・ヤドリギ除去	1,540本	1,540本		1,000本			4,080本
	ウメノキコケ除去	1,110本	1,110本		600本			2,820本
	台風被害木処理			640本	960本			1,600本
	地拵え・植栽			160本	240本	300本	600本	1,300本
	桜苗木養苗					800本		800本
事業費	事業費	30,500千円	30,500千円	21,260千円	33,600千円	17,850千円	29,365千円	163,075千円
	県費	30,500千円	10,150千円	21,260千円	11,200千円	17,850千円	29,365千円	120,325千円

(注:桜樹林面積約50ha。県事業は、国有地及び県有地で実施。町事業は民有地で実施。)

【県担当部局】 くらし創造部景観・環境局自然環境課